＜ガバナンス経費による研究報告＞

2017 年度ガバナンス研究は、言語教育研究センターの教員が中心となって行うプロジェクトであり、内容や人数に応じて研究費が配分された。2017 年度に申請し、認められたプロジェクトは以下の通りである。

プロジェクトの決定が 2017 年度の 12 月ということもあり、プロジェクトの成果報告は次年度の論集で行うことになっていた。したがって、本論集にて各プロジェクトの代表者による成果報告を行う。

なお、2017 年度の研究の内, 7. 英語コミュニケーション授業における英語でのコミュニケーション意欲調査研究 （リーダー　ベー・シュウキー　　メンバー　Pino Cutrone（多文化社会学部））に関しては、代表者のベー・シュウキー先生により昨年度の論集にて報告済みである。

2017 年度のガバナンス研究

1. e-learning 教材　Campus Tour 改訂版の作成と付属テストの開発
　（リーダー　小笠原　真司　　メンバー　奥田　阿子、廣江　顕、William Collins）

2. 異文化対応力を育成する CLIL（内容言語統合型学習）教材作成
　（リーダー　古村　由美子　　メンバー　Brien Datzman）

3. 英語プレゼンテーション視聴覚教材作成
　（リーダー　隈上　麻衣　　メンバー　Brien Datzman, 山下　龍）

4. Introducing Reflective Teaching Practices for Center for Language Studies Instructors
　（リーダー　Jesse Conway　　メンバー　Akira Hiroe）

5. WEB 用中国語文法練習用教材の開発
　（リーダー　楊　暁安　　メンバー　高　芳（長崎県立大学））

6. WEB 用フランス語、中国語初級・中級練習用教材の開発
　（リーダー　大橋　絵理　　メンバー　楊　暁安）

7. 英語コミュニケーション授業における英語でのコミュニケーション意欲調査研究
　（リーダー　ベー・シュウキー　　メンバー　Pino Cutrone（多文化社会学部））

1. e-learning 教材 Campus Tour 改訂版の作成と 3-STEP 付属テストの開発

構成員

リーダー　小笠原真司

メンバー　奥田阿子、廣江顕、William Collins

1. 研究成果の概要

本研究は、長崎大学学生のための英語 e-learning 教材の作成であるが、その内容は 1. Campus Tour 改訂版の作成と 2. 3-STEP 教材の付属テストの開発にある。

1. Campus Tour 改訂版の作成に関しては、Unit 1 の試作版を 2017 年に完成した。その後、モニターなどの意見を取り入れ、可能なところは修正を行い、4 つの Unit から構成される Campus Tour 改訂版の製作に取り掛かった。現在 Campus Tour 改訂版は、教材の原稿が完成し業者に CD-R の製作依頼中である。2019 年度から使用可能となる。

2. 3-STEP 教材の付属テストの開発に関しては、現在教養教育の英語科目（総合英語 I, II, III および英語コミュニケーション III）において、課外学習として必修化されている 3-STEP 教材の音声テストの製作を行うものである。3-STEP 教材の課外学習は、学期中に 2 度テストが行われ、その成績が評価の 40%を占めている。これまで、リスニング部分のテストヴァージョンが少なく、また多くの学生がテストを受けるため、複数のテストの開発を行うこととした。

これまでは、3-STEP とともにテストをしていた PowerWords 教材のテストを複数用意することでテストの種類を増やしていた。今回各リスニング教材に対して、2～3 種類の音声テストを作成することで、さらにテストの種類が多くなった。

2. Campus Tour 改訂版の作成

(1) Campus Tour 改訂版の構成は、表 1 のようになっている。

表 1. Campus Tour 改訂版の構成

Unit	撮影大学	内容
Unit 1	MIT	MIT 大学キャンパス案内
Unit 2	MIT	MIT 大学建物案内
Unit 3	Harvard	Harvard 大学キャンパス案内
Unit 4	Harvard	Harvard 大学図書館案内

(2) システム状況

改訂版　Campus Tour のシステム環境は、以下の通りである。

1. 動作環境

各種ファイルを CD-R に書き込みし、CD-R から本教材を動作させる（2019 年以降はオンライン化する）。

2. 対象ブラウザ

対象ブラウザは下記 2 つのみとする。

・Internet Explorer

・Google Chrome

3. 動作確認するブラウザ

動作確認を実施するブラウザは下記バージョンのみでの実施とする。

・Internet Explorer 11

・Google Chrome 52

3. 3-STEP 教材の付属テストの開発

課外学習として必修化されている e-learning の教材の学習テストは、学期中に 2 度実施される。学習テストの内容は、リスニング教材 3-STEP と語彙教材 PowerWords から構成されている。3-STEP-教材は Unit が 4～5 構成であり、PowerWords は 50 の Unit から成る。学部別使用教材は、表 2 表 3 のとおりである（2019 年度使用予定の教材）。表 4 は 2 回のテスト範囲を示している。

今回のプロジェクトでは、表 5 のように 3-STEP のリスニングテスト用 CD を数種類作製した。

(1) 使用教材

表 2. 3-Step CALL System（リスニング力養成教材）

学年	学期	教・経・保健学科・歯・工・環・水	多・医学科・薬
1 年	前期	First Listening（初級）	New York Live（初中級）
1 年	後期	American Daily Life（初中級）	People at Work（中級）
2 年	前期	New York Live（初中級）	Introduction to College Life（中級）
2 年	後期	Introduction to College Life（中級）	College Life（中上級）

表 3. Power Words／医療医学英単語（語彙力養成教材）

学年	学期	教・経・保健学科・歯・工・環・水	多	医学科・薬
1 年	前期	レベル 3	レベル 5	レベル 5
1 年	後期	レベル 4	レベル 6	レベル 6
2 年	前期	レベル 5	レベル 7	レベル 7
2 年	後期	レベル 6	レベル 8	医療医学英単語

(2) テスト範囲

表 4. 2 回のテスト範囲

	3-Step CALL System	PowerWords	医療医学英単語
1 回目	4Unit の場合：Unit1～2 5Unit の場合：Unit1～2	Unit1～20	1～159
2 回目	4Unit の場合：Unit3～4 5Unit の場合：Unit3～5	Unit21～50	160～318

(3) リスニング CD のタイトルと種類

表 5. テスト用リスニング CD

教材名	範囲	テストの種類
First Listening（初級）	Unit1～2	3 種類　A、B、C
First Listening（初級）	Unit3～5	3 種類　A、B、C
American Daily Life（初中級）	Unit1～2	2 種類　A、B
American Daily Life（初中級）	Unit3～5	2 種類　A、B
New York Live（初中級）	Unit1～2	3 種類　A、B、C
New York Live（初中級）	Unit3～5	3 種類　A、B、C
People at Work（中級）	Unit1～2	3 種類　A、B、C
People at Work（中級）	Unit3～4	3 種類　A、B、C
Introduction to College Life（中級）	Unit1～2	3 種類　A、B、C
Introduction to College Life（中級）	Unit3～5	3 種類　A、B、C
College Life（中上級）	Unit1～2	3 種類　A、B、C
College Life（中上級）	Unit3～4	3 種類　A、B、C

現在、語彙教材 PowerWords のテストを各レベル 4～8 種類作成しており、3-STEP のリスニング教材 2～3 種類と合わせて、10～20 種類程度のテストヴァージョンが用意できる。テストの性格上、実際のテストを本報告書に載せることはできないが、テスト内容周知のため、学生に掲示しているテストサンプルを参考までに次ページに載せておく。なお、このテストサンプルの内容は、架空の教材である。

e-learning 教材学習テスト　サンプル問題

I. Comprehension Questions 適切な答えを選び、該当する番号をマークしなさい。複数解答の場合もあります。（各 3 点）

3-STEP の教材の音声を聞いて質問に答えます。
合計１０題出題されます。

1.ロンドンの有名大学で経済や金融を専攻する学生は、以前はどうだったと言っていますか?

1. 銀行や金融機関から引く手あまただった　2. 就職に不利だった
3. 学生の多くが大学院へ進学した　4. 多くの学生が卒業と同時に起業した
5. 少数の学生のみ金融機関へ就職した　6. 学生数が少なかった

2. ステバンの母親は「ロボットを通して何が可能になると」と言っていますか? 適切なもの３つ答えなさい。

1.給食を一緒に食べられる　2. 友達と話せる　3. 授業に参加できる
4. クラスメイトと勉強ができる　5. 先生に質問できる　6. 話し合いに参加できる

II. Dictation カッコに入る適切な英単語を、<u>記述欄 1~10 に書きなさい</u>。（各 2 点）

3-STEP の教材の音声を聞いてカッコに英単語をいれます。
合計１０題出題されます。

We (1　　) 24 airplane in, airplanes in Brazil now and the majority of those are large-cabin aircraft. So when you, (2　　) you talk to entrepreneurs and business people here, their needs are clearly, uh, are expanding (3　　) the borders of Brazil."
Brazil's market is still (4　　) small, but its appetite for private jets is soaring, fuelling the hopes of a (5　　) industry.

Ⅲ. London Live（架空の教材です）で登場した次の単語を書きなさい。なお、語の最初の文字と最後の文字は指定してある。解答は、最初、最後の文字も含めて<u>記述欄 11～14 に書くこと</u>。（各 2 点）

11. 研究所　i_____e　　12. 毒　p_____n
13. 電気　e_____y　　14. 公害　p_____n

3-STEP で使われている教材から基本的な単語を４題程度出題されます。

e-learning 教材学習テスト　サンプル問題

IV. 日本語を参考にして、英文の下線部に英語を一語書きなさい。なお、語の最初の文字と最後の文字は指定してある。解答は、最初、最後の文字も含めて記述欄 15～18 に書くこと。（各 3 点）

15. I felt a sharp pain in my s_____h.
（私は胃に鋭い痛みを感じた。。）
16. They bought some new f_____e for the house.
（彼らはその家のために新しい家具を買った。）
17. My teacher and my father are similar in a_____e.
（私の先生と父は外見が似ている。）
18. Many parents spend a lot of money on their children's education.
（多くの親たちは子どもの教育に多額のお金をかける。）

PowerWords の学習 UNIT から日本語を参考に下線部分に入る英語を書きます。６題程度出題されます。
なお、医学科、薬学部の２年生対象の医療医学英単語もこれに準じます。

V. 日本語を参考にして、カッコの中に入る最も適切な英単語を選び、該当する数字をマークしなさい。（各 2 点）

PowerWords の学習 UNIT からカッコ内の日本語を参考に英文を完成するのに適切な英単語を８つの選択肢から選んで下さい。このような問題が１２題出題されます。
なお、医学科、薬学部の２年生対象の医療医学英単語もこれに準じます。

1. The (　　) is always crowded on Friday nights.　（劇場）
1. prison　2. impression　3. bookstore　4. theater　5. airline　6. industry　7. branch　8. garage
2. That seafood restaurant serves many different dishes made with (　　).（エビ）
1. freedom　2. society　3. owner　4. actress　5. shrimp　6. eraser　7. passenger　8. steam
3. The prices at that store are very (　　).（とても手ごろな、理にかなっている）
1. rough　2. reasonable　3. apart　4. brave　5. lack　6. impossible　7. absent　8. stupid
4. Parents sometimes need to (　　) their children.（罰する）
1. deliver　2. compare　3. describe　4. share　5. protect　6. report　7. prevent　8. punish

2. 異文化対応力を育成する CLIL（内容言語統合型学習）教材作成

（リーダー　古村由美子　　メンバー　Brien Datzman）

1.　テーマ

異文化対応力を育成するための CLIL（内容言語統合型学習）教材の作成

2.　構成員

リーダー　古村　由美子

メンバー　Brien Datzman

3.　研究テーマの目的

相手との関係を良好に保ちながら、双方が納得できる解決方法について議論し実行に至ることができることを目標とする教科は現在のところ存在しないため、英語教育の中で、内容言語統合型学習として教材作成を行なう。国内・外を問わず、対話の相手と意見が対立している状況で、感情をコントロールしながら、双方が納得できる解決法について議論する力の育成を目的とする教材を作成する。

4.　本研究の必要性

本計画では、異文化対応力を「自分の考えや意見が他者と異なっており、その差異が原因となり問題が発生した際に、冷静に相手からの批判に対応し、双方にとってよりプラスとなる解決案を共に考案し、それを実行する能力」と定義する。このような能力は在学時、さらに卒業後にも学生にとって有益であると考えられるが、通常このような内容を扱う教科がないため、英語教育に導入することは意義があると考える。

5.　研究内容・方法

現在既に一般社団法人アンガーマネジメントジャパンが作成した、専門学校生用と成人用の日本語版教材が存在する。本教材を英語版に改訂する許可を得ているため、英語教材として作成した。海外では多くの関連図書がでているため、これらも参考にして日本の文脈に合うように教材作成を行った。但し、今回の計画で作成した教材は、本来の版を短縮したものである。

6. 本研究の達成状況と成果

6.1. 教材の構成

Unit 1　What is an Emotion?
Unit 2　Stress
Unit 3　Pre-anger feelings: What do we feel before we get angry?
Unit 4　The Purpose of ‘Anger Management’
Unit 5　Rating your Anger Intensity（激しさ）level
Unit 6　Stress Management
Unit 7　Changing how you think: ≪Irritated thinking: distorted cognition≫
Unit 8　Communication styles
Unit 9　Assertive and Productive Communication
Unit 10　Wrap up

6.2. 教材作成とその使用

今回作成しようとした教材は短縮版であり、2018 年 3 月までに作成した。その後同年 9 月に実施した経済学部国際ビジネスプログラム 1 年生を対象とした『短期語学研修』の授業の一部として本教材を使用した。受講生は当該プログラム 1 年生 26 名と交流ボランティアとして参加した留学生 3 名（中国 2 名・マレーシア 1 名）であった。

今回は上記 Unit 1 から 10 までを 3 コマ（1 コマ 90 分間）で実施した。内容を理解するだけでも時間がかかるため、学生同士での discussion や roleplay に費やす時間が十分にはとれなかったことが残念であったが、時間内で最後の unit まで修了した。

6.3. 本教材とプログラムについての感想

本プログラム受講後、受講生は下記の質問について英語か日本語で自由記述した。回答の一部を抜粋して掲載する。

質問：What did you learn about yourself and your communication style?
How did you feel about this program? Please feel free to write anything you thought and felt in Japanese or English.

回答：

- I found that by controlling anger, we could be happier.
- I can manage my short-term anger. However, sometimes I cannot keep calm when I get very angry. I learned many ways to manage anger, so if I get very angry, I’d like to try not to hurt anyone.

- This class was very difficult for me. It is because I sometimes don't understand others' feelings. However, I understand we have to care for each other.
- To consider others' feeling is very difficult. Everyone does not necessarily accept my opinion, so I hesitate to be honest. If I am honest to say the truth, my friends may be angry. However, we share our own opinions. So I learned the style which I could do with friends. I shared my opinion with exchange students, so I could get various knowledge.
- I think that the most important thing is to know and understand myself, my country, and my culture.
- I really enjoyed learning "Anger Management". I learned my own type of communication with people. I'm usually "Aggressive", but I think that I should be "Assertive". I will try to hear other people's opinions. I think to know myself is the most important to be better in my life.
- In this class, I could review my mind when I got angry. I learned that there are many types of anger, and I found my own way to control my anger, and also that other people feel emotions.
- 今回のような授業は今まで受けたことがなかったので、とてもためになる授業だった。これから友達や先生との会話の中で自分の"communication style"を意識して話そうと思う。
- （ロールプレーでは）私に謝ってくれたら許す、という考えだったけれど、自分の友達が必ずしも自分と同じ考えを持っているというわけではなく、これからの関係をよりよくするために、どのように伝えるべきかを考える大切な時間だったと思います。

7. 今後の展望

今回作成した教材は短縮版であったため、今後は 15 コマの授業で使用するための教材を作成していく。

3. 英語プレゼンテーション視聴覚教材作成

（リーダー：隈上麻衣 メンバー：Brien Datzman、山下龍）

1. 研究内容

英語プレゼンテーション能力は自分の意見を発信する上で非常に重要な能力の一つであるが、普段の授業内で丁寧に個別指導することは難しい。そこで学生が興味を持って学習できるよう、長崎大学の学生に合った内容（長崎に関連したテーマ、同じ長崎大学在学生による発表）でプレゼンテーション教材を作成した。平成 29 年度は、これまでガバナンス研究によって作成したプレゼンテーション DVD 3 巻を用い、付属する教材を作成し、学生の言語運用能力を養うことのできる自学環境をより充実させることを目的とした。

2. 成果

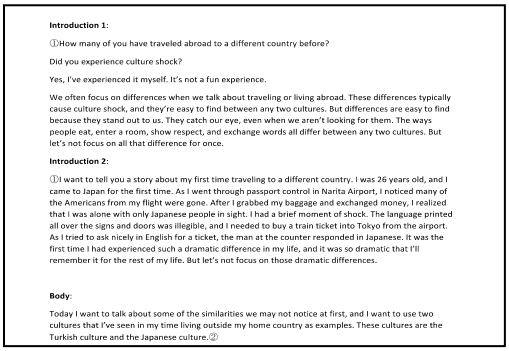
平成 29 年度は各巻のプレゼンテーションの①視覚資料（スライド）、②原稿を学習用に修正した。加えて、内容理解確認問題 2 種類（③Dictation、④Comprehension Question）、⑤映像に関する利用者アンケートを作成した。

【自学用視聴覚教材収録内容】

- Vol. 1: 6 本（学生プレゼンテーション 3 本、モデルプレゼンテーション 3 本）×2 バージョン（字幕付き・無し）（別録）に対応する資料①～⑤
- Vol. 2: 4 本（学生プレゼンテーション 2 本、モデルプレゼンテーション 2 本）×2 バージョン（字幕付き・無し）（別録）に対応する資料①～⑤
- Vol. 3: 4 本（学生プレゼンテーション 2 本、モデルプレゼンテーション 2 本）×2 バージョン（字幕付き・無し）（別録）に対応する資料①～⑤

【スライドサンプル】

【原稿サンプル】



Introduction 1:

①How many of you have traveled abroad to a different country before?

Did you experience culture shock?

Yes, I've experienced it myself. It's not a fun experience.

We often focus on differences when we talk about traveling or living abroad. These differences typically cause culture shock, and they're easy to find between any two cultures. But differences are easy to find because they stand out to us. They catch our eye, even when we aren't looking for them. The ways people eat, enter a room, show respect, and exchange words all differ between any two cultures. But let's not focus on all that difference for once.

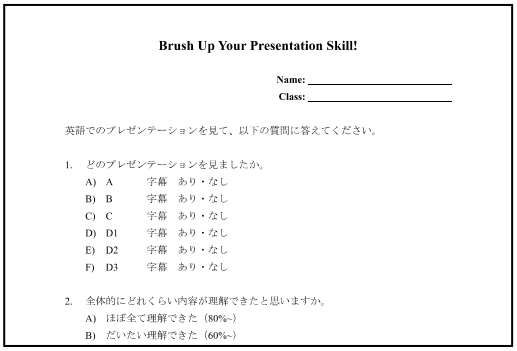
Introduction 2:

①I want to tell you a story about my first time traveling to a different country. I was 26 years old, and I came to Japan for the first time. As I went through passport control in Narita Airport, I noticed many of the Americans from my flight were gone. After I grabbed my baggage and exchanged money, I realized that I was alone with only Japanese people in sight. I had a brief moment of shock. The language printed all over the signs and doors was illegible, and I needed to buy a train ticket into Tokyo from the airport. As I tried to ask nicely in English for a ticket, the man at the counter responded in Japanese. It was the first time I had experienced such a dramatic difference in my life, and it was so dramatic that I'll remember it for the rest of my life. But let's not focus on those dramatic differences.

Body:

Today I want to talk about some of the similarities we may not notice at first, and I want to use two cultures that I've seen in my time living outside my home country as examples. These cultures are the Turkish culture and the Japanese culture.②

【利用者アンケート】



Brush Up Your Presentation Skill!

Name: _____

Class: _____

英語でのプレゼンテーションを見て、以下の質問に答えてください。

1. どのプレゼンテーションを見ましたか。
   A) A　字幕　あり・なし
   B) B　字幕　あり・なし
   C) C　字幕　あり・なし
   D) D1　字幕　あり・なし
   E) D2　字幕　あり・なし
   F) D3　字幕　あり・なし

2. 全体的にどれくらい内容が理解できたと思いますか。
   A) ほぼ全て理解できた（80%~）
   B) だいたい理解できた（60%~）

本教材は、英語コミュニケーション、総合英語の授業内やプレゼンテーションコンテスト参加者の指導、言語教育研究センターが学期中に実施している English Café において活用されている。

現在、理解度や内容に関するアンケート調査を随時実施している。今後も調査結果をもとに、教材作成していく予定である。

4. Introducing Reflective Teaching Practices for Center for Language Studies Instructors: A Preliminary Study

(Leader – Jesse Conway, Member – Akira Hiroe)

1. Theme

Professional development, reflective teaching practices, self-observation, peer observation

2. Grant awardees

Jesse Conway
Akira Hiroe

3. Purpose of research

As an exploratory pilot study, its purpose was to gauge the efficacy of certain types of reflective practices as potential supplements to annual professional development (PD) sessions. Self-observation and peer observation practices were chosen for their perceived familiarity to participants, their low time requirements, and their focus on the descriptive level of classroom practice. Since PD sessions include part-time instructors who have commitments to multiple institutions, the immediacy and convenience of employment of the practices were seen as most applicable to a future target population.

4. Necessity of research

Instructors strive for continual professional development (PD) throughout their careers but may only have the ability to engage in focused PD irregularly due to factors such as time, funding, or their teaching environment. The current frequency of PD at Nagasaki University for both full-time and part-time staff is once a year. This may not be as frequent as some instructors would like. Therefore, introducing the reflective practices of self-observation and peer observation to instructors as independent methods of engaging in PD would show Nagasaki University (NU)'s commitment to assisting in its employees' ongoing PD.

However, before introducing the two reflective practices, it is important to determine

whether or not they are easy for instructors to both understand and employ. If the practices are seen as lacking in these areas, it would follow that different reflective practices could be included in future studies and re-evaluated for their efficacy.

5. Research methods

The study is a mixed-methods study, employing a questionnaire that measures attitudes towards reflective practices quantitatively through the use of Likert-scaled closed items and qualitatively through the use of short response open items. The results of these measurements were used to answer the following three research questions:

RQ 1. To what extent are the reflective practices introduced to instructors seen as easy to use?

RQ 2. To what extent are the practices introduced to instructors seen as easy to understand?

RQ 3. What are instructors' attitudes toward the reflective practices introduced in the study?

Participants (N=4) were full-time instructors employed at Nagasaki University, Japan. Three were male and one was female. Their teaching experience ranged from a minimum of 6.5 years to a maximum of 29 years. Two participants worked as either professor or assistant professor for the Center for Language Studies (CLS) at Nagasaki University. The other two participants were employed by the University of Montana and worked in the Special Course in Academic Skills (SCAS) Program at Nagasaki University. Participants stated that they engaged in professional development (e.g., attendance at academic conferences, workshops, and/or training sessions) in varying amounts. The participants from the SCAS program (n=2) indicated a rate of once a semester, while CLS instructors (n=2) indicated a rate of once an academic year.

Prior to enacting the reflective practices, participants received an approximately one-hour training session. In the first half of the training, the researchers introduced participants to Farrell (2015)'s framework for reflective practices in an informal discussion format. The second half of the training was used to train participants on how to enact either self-observation or peer observation. Following the enacting of a reflective practice, participants completed a questionnaire administered through Google Forms. Results were exported and analyzed using Microsoft Excel.

6. Current results

RQ 1. To what extent are the reflective practices introduced to instructors seen as easy to use?

Responses to items measuring ease of use showed that regardless of the reflective practice they engaged in, participants agreed with the statement that the practices were easy to use. The participants engaged in peer observation reported a higher level of ease than those who practiced self-observations.

RQ 2. To what extent are the practices introduced to instructors seen as easy to understand?

All participants agreed with the statement that the practices themselves were easy to understand. There was a small difference in the mean values showing agreement between the two practices and on the whole; results show that the practices were seen by participants as easier to understand than they were to use.

RQ 3. What are instructors' attitudes toward the reflective practices introduced in the study?

Self-observations were seen as being time intensive, a negative aspect that was brought up by both participants. Both participants also provided their views on the positive aspects of the practice: It made them more aware of a teaching practice, the exercise had an overall positive value, they would recommend the practice to colleagues, and they would attempt to engage in the practice again in the future.
Research regarding peer observations often cites affective factors that may come into play depending on cultural levels of expression, seniority levels, or other intervening variables at play in a peer dynamic (Farrell, 2018). The participants in this study did not cite this as an issue, which can be seen as a positive reaction. The remainder of the responses to items showed that participants had positive reactions to peer observation, with both indicating that they would recommend the practice to colleagues and attempt to engage in the practice again in the future.

7. Future directions

These results have indicate that the self- and peer observation practices introduced in this study were seen as easy to use and to understand for mid-career and late-career instructors. To convert this pilot study into an actual experimental study, a number of

limitations need to be addressed. First, a suitable sample would need to be gathered from the full-time and part-time instructors linked to the CLS. Following this, the questionnaire would need both revision and verification. The current version uses a bare minimum of items needed to generate an average score to rank agreement with the constructs of ease of use and ease of understanding. Increasing the number of items contributing to each average is necessary, as is balancing the currently uneven number of items being used as well. Finally, item analysis should be carried out to identify under-performing items and verify reliability of each average. Following these revisions, the study could be repeated to achieve a more accurate measure regarding the efficacy of introducing these practices to instructors at the CLS.

5. 中国語文法練習用教材の開発

（リーダー　楊　暁安　　メンバー　高　芳（長崎県立大学））

1. テーマ

中国語基本表現の練習用教材の開発

2. 構成員

リーダー　楊　暁安
メンバー　高　　芳

3. 研究テーマの目的

中国語では様々な言語表現があるが、その中で「所有・存在・比較・使役・受身・可能・程度・疑問」という 8 種類の表現は中国語表現の基本パターンで、コミュニケーションでよく使う表現法であり、中国語学習を進めていく上で基盤となるものである。本研究の目的は、以上中国語八種類の基本表現を詳しく解説し、多くの練習問題を作成することにある。

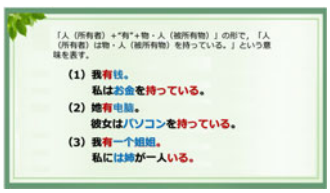
4. 研究方法

まず 10 種類の中国語教科書を分析し、その中の中国語表現項目を集め、「日本中国語検定試験」の過去問（10 年分）を調べた。さらに試験問題にでた様々な中国語表現を集めて、最後にこの二つの資料を合わせ、中国語の中で最も基本的な表現、すなわち上記の 8 種類の表現を決定した。その後、大学生にとってこれらの表現を学ぶときに何が難しいかを詳しく分析し、説明の要点をまとめ、担当部分を決め（楊は説明、高は練習問題作り）、PPT 用教材を作成した。

5. 今年度の成果

PPT の形で基本表現の説明と練習問題を作成し、一部学生の中国語学習で使用した。

「中国語基本表現」目次と「（１）所有表現」の部分内容



二.否定表現
否定文を作る場合は副詞"没"を"有"の直前に置き、"没有～"で「～を持っていない」の意味になる。一般動詞のように副詞"不"を使用しないところに要注意。
人（所有者）
否定副詞
有
物・人（被所有物）
我
没
有
照相机。
私はカメラを持っていない。
我
不
有
照相机。
同上

三.疑問表現
疑問文は"吗"の諾否疑問文の他に、反復疑問文もあります。
人（所有者）
有
物・人（被所有物）
和訳
你
有
照相机 吗？
あなたはカメラを持っていますか。
你
有没有
照相机？
同上
你
有
照相机 没有？
同上
中国
有
十三亿人口 吗？
中国は13億の人口を有しますか。
中国
有没有
十三亿人口 ？
同上
中国
有
十三亿人口 没有？
同上

四.副詞の位置
"有"は動詞であるため、"还""也"等の副詞はその前に置く。
所有者
副詞
有
被所有物
和訳
你
也
有
照相机 吗？
あなたもカメラを持っていますか。
我
还
有
时间。
わたしはまだ時間があります。
他们
也
有
一个孩子。
彼らにも子どもが一人います。
你们
都
有
电脑 吗？
あなたがたはみなパソコンを持っていますか。
他
已经
有
三台电脑了。
彼はすでに三台パソコンを持っています。

五.列挙を表す「有」
この文型は数個の「有」＋名詞（連語）を並列しているか、あるいは「有」の後にいくつかの名詞あるいは連語を並列している。「有」の前の名詞連語は概括した、大きなまとまりを指す。
(1)这些邮票有法国的，有日本的，有中国的，也有巴西的。
これらの切手の中には、フランスのものも、日本のものも、中国のものも、それにブラジルのものもあります。
(2)这个旅游团里有教师、商人、工人、医生、演员等各色各样的人。
この旅行団の中には、教師、商人、労働者、医者、俳優など様々な人がいます。

（1）所有表現のまとめ
人（所有者）
（没）有
物・人（被所有物）
吗
老师
有
电脑。
老师
有
电脑
吗？
老师
有没有
电脑？
老师
没有
电脑。
老师
没有
电脑
吗？

練習問題（一）
一、下の単語を用いて文を作ってください。
(1)私はデジカメを二台持っている。
照相机、我、两台、有
解答：我有两台照相机。
(2)彼はパソコンを持っていません。
电脑、有、他、没
解答：他没有电脑。
(3)あなたには外国人のお人がいますか。
朋友、你、外国、吗、有
解答：你有外国朋友吗？

6. WEB 中国語、フランス語初級・中級練習教材の開発

（リーダー：大橋　絵理　　メンバー：楊　暁安）

1. テーマ

長崎大学学生のための中国語・フランス語の e-learning 教材の開発

2. 構成員

リーダー：大橋　絵理
メンバー：楊　　暁安

3. 研究テーマの目的

本学の初習外国語の授業は 1 年生及び 2 年生の選択必修で週 1 コマしかなく、このような時間数では外国語を取得するには不十分だと考えられる。その不足分を補うには自学自習が必要となってくる。本研究の目的は、昨年度に続き、初習外国語の習得をいかに効果的に行うかを考察し、学生の能力に適した長崎大学学生のための自学自習用の e-learning 教材の作成することである。

4. 研究方法

(1) 昨年度同様に学生に、「初習外国語に何を望んでいるか」というアンケートを実施した。

その結果、中国語、フランス語とも以下のような同様な結果がでた。

「日常会話ができるようになりたい」「ヒアリング能力を身につけたい」「簡単な文章が書けるようになりたい」「簡単な文章を訳せるようになりたい」「選択している国の文化や社会を知りたい」

(2) 国内・国外の語学教育の研究会に参加し、初習外国語の授業の方法について他大学の教員と情報交換を行い、CALL 教室や LL 教室を視察し、授業に参加した。

5. 今年度の成果

学生たちの要望に応じるために、今年度は文化や社会を知ることが可能な教材を含めて、新たな練習問題を作成した。

＜中国語＞

(1) 昨年度は 1 年生のために中国語の発音 WEB 練習問題を作成したが、今年度は 2 年生が自宅で学習できるように、WEB でテキストの練習問題の解答を作成した。

(2) 1 年生と 2 年生用教材を中心に、「中国語文法基礎」（品詞から基本文型まで計 48 項目）を作成し、2 年生の一部クラスで使った。

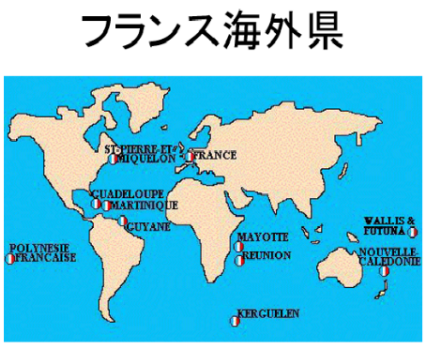
（１）２年生用中国語練習問題の解答

（２）中国語文法基礎

＜フランス語＞

(1) 昨年度は 1 年生用の基礎的な教材を中心に作成したが、今年度は 2 年生用に、簡単な文章が書けるようになるような、より複雑な文法の教材を作成した。

(2) フランスの社会を知るために、日本には存在しない、ヨーロッパ以外のフランスの海外県についての教材を作成した。

(1) 2 年生用問題

(2) 海外県